

イオラニ、 プナホウへの道




ドクター高橋俊明
心理学博士
ドクター高橋塾長
1947年宮崎県生まれ。県立大宮高、東京教育大学理学部を卒業。東京教育大学大学院心理学を修了し、ハワイ大学心理学博士課程に進学。68年に神奈川県・川崎市に高橋塾を設立し、77年にホノルルにドクター高橋塾を設立。データ分析を基にした独自の指導法で、2014年度は、ハナホウオリ校に2人、イオラニ校に34人、プナホウ校に72人を合格させている(合格率55%)。
Web: www.juku-in-hawaii.com ☎808-949-3366

【その110】青少年心理学と塾

中学生殺害事件に思う

私が数人の学友と学習塾を9カ所で始めたのは、今回、中学1年生の少年が多摩川の河川敷で殺された場所からそう遠くない川崎市内でした。1968年当時、川崎市には予備校が一つあったものの、いわゆる学習塾なるものは一つもありませんでした。以来9年間、多くの青少年と接し、彼らから、大学の授業では決して学ぶことのできない青少年心理の危うさと複雑さを学びました。そして、東京教育心理学部在籍していたものの、日本の青少年心理学の草分け的存在である教育学部心理学科の桂広介先生(後の筑波大教育学部第6講座教授)に教えを乞い、この不安定な世代に貢献できる道を模索しました。今回の事件は、そんな私にとって胸を締め付けられる思いがします。なぜなら、加害者も被害者も、まさに青少年期の真っただ中にあり、事前にくらでもヘルプできたからです。

LIVE TO BE 142 YEARS OLD(このペーパーは142歳まで生きるかもしれない)というタイトルがついています。テキサス大学の健康科学センターで平均寿命2・3年のマウスが1・7倍の4年も生き、しかも若いマウスより若々しいという研究結果が発表されたのです。これを額面通り取ると、今回の犠牲者は百数十年もの人生を失い、加害者は同じく100年以上もの人生を罪を背負って生きていかねばなりません。長い人生のごく最初の時点でなぜこのような悲劇が生じるのか。被害者にも加害者にも適切なヘルプがなされなかった現実をこのままにしておいてはなりません。

青少年心理と塾

塾という立場で、日米の多くの青少年と関わってきました。そこでまず私が注目するのは、学力以前に、本人の自己意識がどんなものであるかということ。84年に、恩師マッセラ(ハワイ大教授、後の副総長)と開発した簡易型自己意識判断質問のあるものは以下のようなものです。現実の塾面接にあつては、初対面

質問	全く同意	やや同意	やや不同意	全く不同意
1 大体において、自分は、自分に満足している	A	B	C	D
2 たまに、自分は全くいいところなしだと思う	D	C	B	A
3 自分には、いくつかの長所があると感じる	A	B	C	D
4 他のほとんどの人々と同様に、いろいろなことをやる自分だと思う	A	B	C	D
5 自分には誇れるものがないと思う	D	C	B	A
6 たまに、自分は全くの役立たずだと思う	D	C	B	A
7 少なくとも、普通の人のように、自分も何らかの価値のある人間だと思う	A	B	C	D
8 もっと今以上に自分自身を尊敬できたらいいのだけれどよく思う	D	C	B	A
9 よく思う 自分は、敗北者だと	D	C	B	A
10 自分自身に対して好意的に考えている	A	B	C	D

この10個の質問の答えに対し、AからDを選びます。Aを2点、Bを1点、Cをマイナス1点、Dをマイナス2点として合計点を計算します。合計の幅は、20点からマイナス20点です。青少年の場合、合計点がプラス5点以上であれば平均的です。しかしこれがマイナス5点以下になってしまつたと、下手すればやけっぱちな生活を送りかねません。逆にプラス20点に近い点数でも、青少年としては自信過剰で発

性がないかもしれません。健康な青少年は、心の奥底に得体の知れない不安を抱えているものです。本人にも分からない、青少年特有の言葉にできない不安です。多くの大人はかつて自分がそうだったことを忘れていきます。日米で千人近い高校生を調査した結果、成績の良い子ほど、自分

に対して自信がないことが分かりました。楽しく勉強しているというより、不安に駆られて勉強しているのが実情に近いかもしれません。それだけに、私は楽しく勉強させることに神経を使っています。サマースクールには、海外からも多くの青少年がやってきます。そんな中の一人の書いた詩を掲載します。彼女は、診断では最初マイナス点でしたが、塾で初めて楽しい勉強というものを体験し、大きく変わりました。

~~~~~

14歳のひと夏のユメ  
(アメリカンスクール9年生、東京在住)

もし可能なら、  
小さい小さい南の島に行きたい。  
何もかも忘れてゆつくりしたい。  
誰にも文句を言われず、  
自由に動きたい。  
「べんきょう」という悪魔から身を離して、  
静かな波の音を  
ずっと聞いていたい。  
プライド、立場、常識を忘れて、  
ただ美しい海をながめていたい。  
時間ときよならして  
自分の思うまま  
自分のやりたいことをしたい。  
.....  
何かを見つけるかもしれない。  
最高の夏休みになるだろう。  
大人になっても覚えていたい。